学びをもっと自由に

komachi

株式会社ジオグリフ

GEOGLYPH

株式会社ジオグリフ
代表取締役 田畑豊史

[お問合せ]
0120-934-283
[komachiサイト]
https://app-terminal-komachi.net/
[koedoメディア]
https://ko-edo.com/

Introduction

日本における教育改革の変遷

義務教育の導入

1872年（明治５年）　学制の制定～

「富国強兵」

6.3.3.4制の単線型学校制度への転換

1947年（昭和22年）　学校基本法・学校教育法

「全ての子どもたちの教育の機会均等の実現」

46答申

1971年（昭和46年）　中央教育審議会の答申

「工業化社会における産業構造に適した人材配分」
生涯教育／不登校・いじめの顕在化と対応

ゆとり教育

「生きる力」という学力観　学校の自主性、自律性を確立

1980年（昭和55年）　自ら考え正しく判断できる力をもつ児童生徒の育成

1992年（平成４年）　社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成

2002年（平成14年）　自ら学び自ら考える力などの生きる力を育む

「個性重視の原則」「生涯学習体系への移行」
「国際化、情報化などの変化への対応」

2020年教育改革

新学習指導要領「生きる力　学びの、その先へ」

2020年度～　小学校

2021年度～　中学校

2022年度～　高校

学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」
実社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」

「komachi」誕生の背景

アプリケーションターミナル「komachi」はコロナ禍の中で生まれました

新型コロナウイルスにより学校閉鎖となった2020年３月――。学習塾運営支援のアプリケーションサービスを提供していた弊社に、いつもとは違う問い合わせが入るようになりました。

「生徒にうまく情報が届かない」

これまでにない問い合わせに、弊社スタッフは現場で何が起こっているのか、学習塾の先生や、お子さん、保護者さま、知人に、母校にと、聞いて回りました。

その中で、友人から家庭で起こっている状況を聞くことができ、私たちは「生徒にうまく情報が届かない」その原因に、ようやくたどり着きました。

「娘は私立校だからオンライン授業が始まっているのだけど、オンライン授業のURLやらパスワードやら配布される資料やらが、授業ごとにバラバラに送られてくるって……それは大人だって混乱するよね」

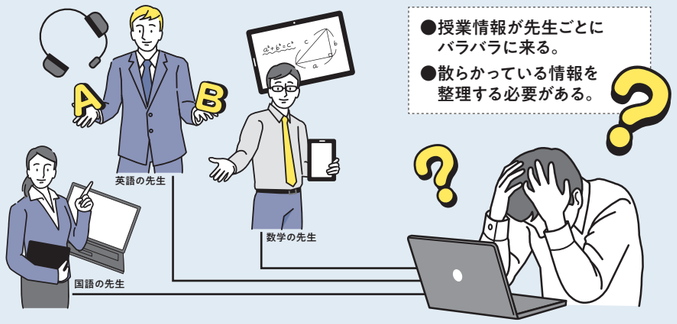
「休み時間の５分間に授業準備しきれなくて遅刻して、娘は泣いていたよ……」

子どもたちには１日に６コマ分、７コマ分もの授業情報が届きます。しかも授業の順に届くわけでもなければ、連絡の届く日もバラバラです。その上、授業後には宿題の連絡も入ってくるのですから、これらの連絡内容を整理するだけでひと苦労です。大人でもこれだけの量のメールを捌ききるのは大変でしょう。

従来は学校・教室という物理的空間の中で行われていた情報伝達ですが、そこで「教室という空間」が担っていた機能に、私たちはあらためて気づかされました。

一人ひとりの状況ではなくクラスの生徒全体で見ると、下図のような状況になっているということでしょう。さすがにこれでは「情報がうまく伝わるはずがない」と、私たちも納得できました。

「だからITではダメなんだ。やはり人と人とがリアルで向き合う授業でないといけない」という声も聞こえてきましたが、アナログにはアナログなりに最適化されたツールがあるように、ITにはITなりの最適化されたツールがあると私たちは考えました。



「komachi」の開発コンセプト

学校にはもともと素晴らしいツールがある

「教室という物理的空間が先生と生徒を結びつけ、その教室で交わされる『連絡』が生徒と授業を結びつけている」

システム的にそう解釈できるこの「連絡」を、先生にも生徒にも負担をかけずに代替できるものはなんだろうか？と考えたときに、学校にはそれこそ昔から使われている素晴らしいツールがあることに気づきました。

それが「時間割表」です。

時間割表はもともと、日付（曜日）と時間とで構成された表の中に授業内容があり、そこで「先生」と「生徒」が結びつけられています。その「時間割表」を通して連絡をやりとりするだけで、生徒の負担は激減します。先生にとっても、生徒から集まってくる情報（宿題や感想文など）を取りまとめるのに好都合になります。

こうしてアプリケーションターミナル「komachi」は、「時間割表を利用した、先生と生徒のコンタクトツール」という概念から開発が始められました。

足していくより 引いていく

それがアプリケーションターミナル「komachi」を開発していく上で、私たちが大切にしたコンセプトです。

とかくITというのは、いろいろとできてしまいます。文字通り「あれもできる」「これもできる」――。開発エンジニアも、そしてお客さまも、「できることを増やすと便利になる」と思ってしまいます。けれども本当にそうでしょうか？

「日本のIT化は遅れている」

全世界を巻き込むコロナ禍の中で様々な情報に触れてみると、豊かで技術力もあるはずの日本のIT力が、実は世界で劣っていることに気づかされます。

つまり、１つのシステムでできることを増やしても「便利」にはならない。むしろ、ベースとなるプラットフォームはできるだけシンプルにして、世の中にすでにあるITツールをうまく連携させた方が、本当の意味で「便利になる」と私たちは考えたのです。

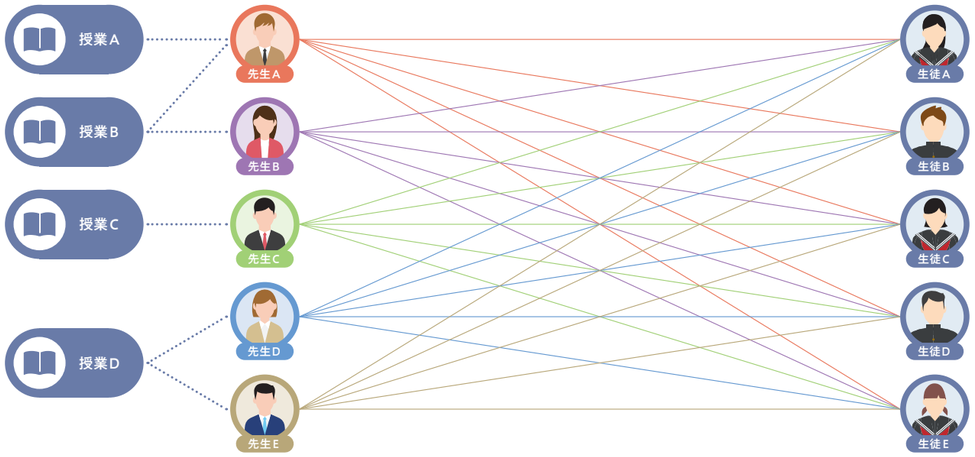
ユーザーサイドからしてみれば、ストレスフリーに機能がつながっていけばいいのです。すべての機能を１つのシステムで担う必要はありません。

だからこそ私たちは「足していくより、引いていく」をコンセプトにしました。

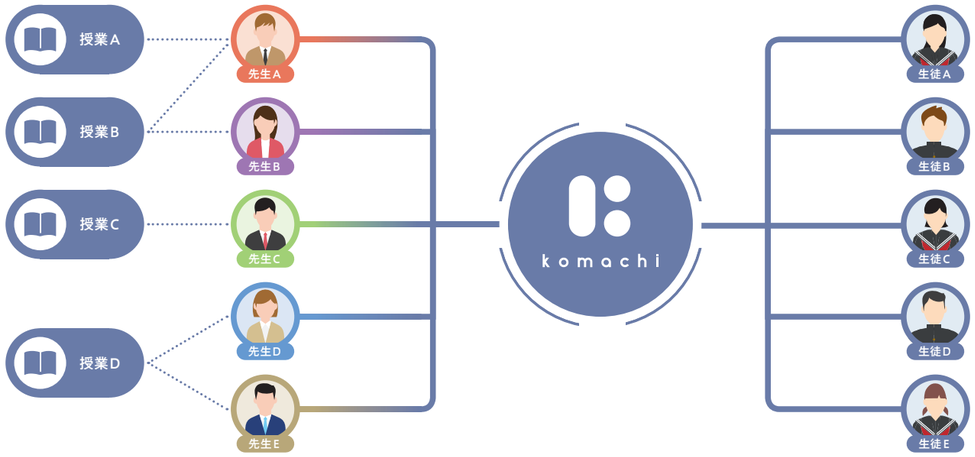
アプリケーションターミナル「komachi」で行うのは、先生と生徒の「連絡」を簡単で便利にするところだけ。他にやりたいことがあれば、他のツールを利用する。

先生方が工夫し、努力してきた授業を活かせるように、またそれを助けようとする多くのIT企業の工夫が活きるように、アプリケーションターミナル「komachi」は、ただひたすらシンプルに『連絡』だけをミッションとしています。

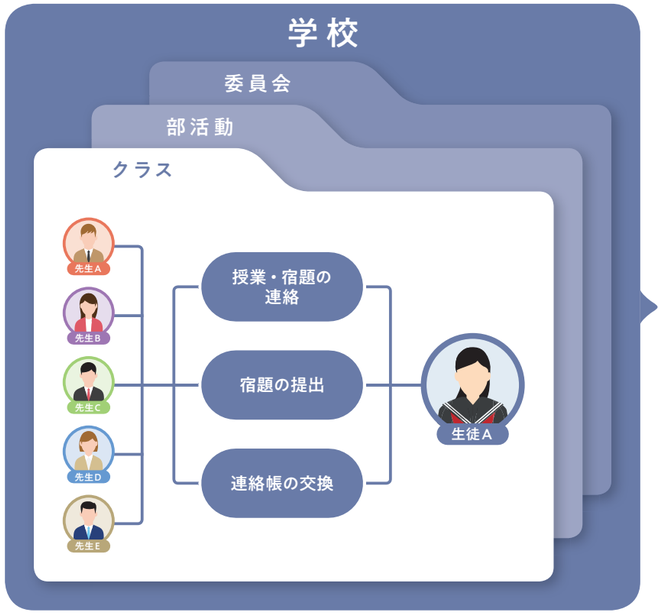
課題の本質＝複雑なコンタクト・ライン



課題解決の方法＝コンタクト・ラインの整理



「komachi」の機能



先生と生徒のコンタクトを一元で管理できるアプリ

「コンタクト一元化ツールとしてのみ機能するシンプルなアプリケーション」

それが「komachi」です。

時間割表を利用した、先生から生徒たちへの「授業や宿題等の連絡」と、生徒から先生への「宿題等の提出」。

さらにこの「生徒から先生への宿題の提出」という機能に付随して付けられた「授業ごとの出欠確認」。

そして「クラス」と「生徒」の間で交わされる「連絡帳（生活ノート）」。

そのほかにも、「学校」「クラス」「部活動」「委員会」等のカテゴリーごとに、先生と生徒を柔軟に振り分けしながら発信できる「お知らせ」の機能を「komachi」は持っています。

1 時間割表機能

時間割表の中の「コマ」で先生と生徒がマチ合わせる

時間割表は、生徒視点の時間割表と、先生視点の時間割表を持っています。時間割表の中の「コマ」をクリックし、その授業で伝えたい情報を書き込むことで、その時間割表を見ることのできる生徒たちに、情報を伝えることができます。

宿題も、出欠確認も、授業の感想や質問も、この「コマ」を通してコンタクトを交わすことができます。

生徒それぞれに、見ている時間割表は異なります。同一のコマ上にある選択科目も、「科目」と「生徒」それぞれにタグ付けをすることで、閲覧できる授業情報を変えることができます。

インフラの整備とは

ネット環境を整えるだけでなく、交通ルールを整えることまでが「インフラの整備」であると私たちは考えています。道路を引くだけでは、多くの利用者（通行者）を捌ききれなくなるのです。

2 連絡帳（生活ノート）機能

「先生と生徒」ではなく「クラスと生徒」に

アプリケーションターミナル「komachi」の主な機能の２つめが連絡帳の機能です。

連絡帳は、１人の先生と１人の生徒ではなく、あえて「１つのクラスの先生」と「１人の生徒」とで交わされる連絡帳として設計しました。

「１つのクラス」に所属している先生は、もちろん担任の先生１人だけということも可能ですが、「先生と生徒による１対１のSNSやメールの利用から、先生の不祥事が起こっている」という事例を踏まえ、「クラス」に関係する先生を複数人配置できるという仕様にしてあります。

クラスに所属する先生は、担任と副担任でも、あるいは担任と管理者でも、学校の運用方針に応じて自由に設定できます。

「連絡帳」に備わる２種類のフセン機能

さらに連絡帳には、「未返信フセン」と「振返りフセン」という２種類のフセン機能が付いています。

①未返信フセン

１つは、生徒の投稿に関して未返信だった場合の「未返信フセン」です。「未返信フセン」は、返信してない投稿に対して自動的にフセンが付きます。フセンをクリック（タップ）することで、該当する日付の記事に遷移します。生徒の記事にコメントを返すことで「未返信フセン」が外れます。

②振返りフセン

もう１つのフセンは「振返りフセン」です。連絡帳の機能では、先生側は「生徒に見える投稿」と「生徒から見えないメモ」を書くことができます。「振返りフセン」は、先生が意図的にアクションを起こして貼っておくフセンになります。フセンをクリック（タップ）することで、該当する日付の投稿に遷移します。生徒の悩み、先生の心配事、あるいは時系列で追う必要があると感じた投稿など、振返り事項の備忘録として利用いただきたい機能です。

3 その他の機能

学校に関わる先生と生徒を様々にグループ分けできる

先生と生徒が、必要な相手に必要な情報を届けるために、関係する先生・生徒全員の情報をデータベースで管理しています。そのデータベース上で、先生・生徒それぞれにタグ付けをすることで、同一コマ上の授業分岐や、クラス・部活動・委員会等のグループ分けを行っています。

「期限機能付き」のタグ機能

クラスも、委員会や部活動も、あるいは履修科目も、そしてもちろん学校での生活そのものも、すべて「期限」を持っています。アプリケーションターミナル「komachi」では、タグ機能に「期限」を持たせることで「タグ外し」の手間を省きながら、履修科目等の履歴を残す仕組みを持たせています。

この機能があることで、「○○年の卒業生」など、学校によっては同窓会管理にも利用できる可能性を持っています。

komachiプロジェクト

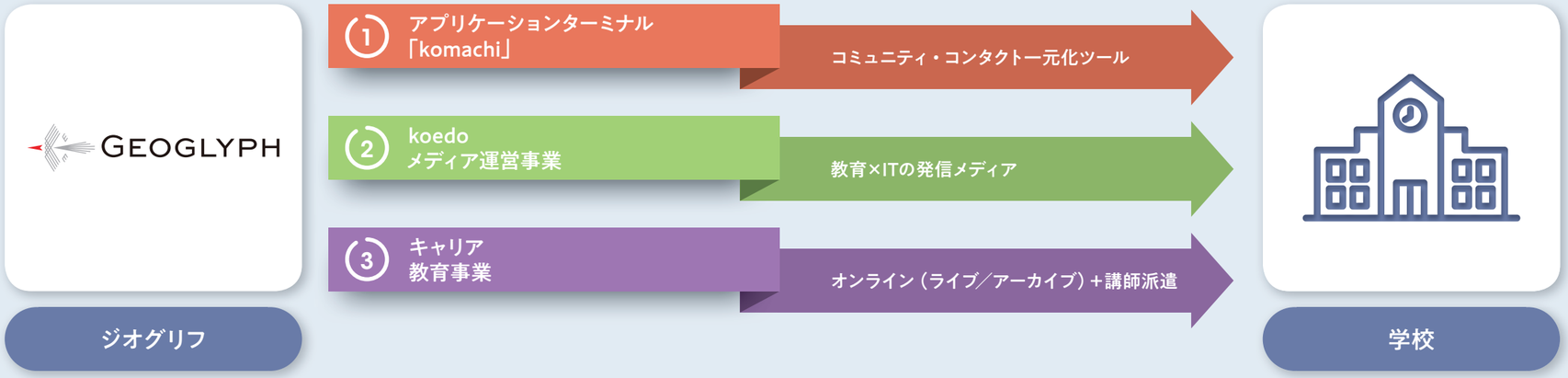
IT技術を社会の中で活かす そのために放つ“3本の矢”とは

アプリケーションターミナル「komachi」を基点としながら、私たちは「komachiプロジェクト」を進めています。

社会の変化にともなう教育の変化は、すなわちIT化・オンライン化ということではありません。ITはあくまでツールであり、IT技術は社会の中でうまく活用されてこそ初めて活きてくるということを、私たちは忘れてはいません。

そこでkomachiプロジェクトでは、次のような“3本の矢”を用意しています。

- アプリケーションターミナル「komachi」
- koedoメディア運営事業
- キャリア教育事業



koedoメディア運営事業

教育現場に埋もれる課題と IT技術とを結ぶメディア

オンラインとオフラインの接点に、ITはウィークポイントを持っています。

つながれば多くの恩恵を受けられるIT技術ですが、「いつでも」「どこでも」「誰でも」がITツールにつながっているわけではありません。

そもそもITを「知らない」ということも、私たちは多くの経験から知っています。知らないのはなにも、ユーザーがIT技術を知らないということに留まりません。

私たちIT会社、ITエンジニアも、「現場の困りごと」「現場の課題」を知らないということが珍しくないのです。

その「困りごと」や「課題」が、現場の人から見れば別に「困った」とか「課題だ」と感じていないということも往々にしてあります。

ですので私たちは、全国の現場にある課題・工夫と、IT技術とを結ぶメディアの必要性を感じています。

無いものはつくればいい

ITにはどうしても、情報格差がついて回るもの。世代間の差、家庭間の差、地域間の差、業界間の差がついて回ります。

特に学校教育は、その性質上【地域性】から逃れにくくなってしまいます。

その差をできるだけ小さくすること、タイムラグを少なくすることは、子どもたちの教育環境を考える上でも重要なミッションだろうと考えています

そこで私たちは、各地域に点在し、教育にITが利用され始めた環境で生じる“現場の声”を、丹念に訪ね歩けるライターの方々と協力しながら、『koedo』というメディアで発信を始めています。

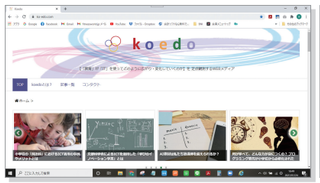
koedoのメディアミックス構想

koedoは「声」と「DO」、「声」と「教育（Edcation）」から連想して名付けました。全国の現場の「声」を拾いながら、10年という目標を掲げて発信を続けていきます。

koedoでどのように発信していくか？を考えたとき、私たちは３つのメディアミックスによる発信を構想しました。

①WEBサイト
②WEBラジオ
③季刊誌

私たちはIT会社ですから、ITの強みも弱みも知っているつもりです。それゆえWEBサイトでの展開だけでなく、「声（音声）」を通して届けること、また文字を紙媒体にのせて届けることも行っていきます。



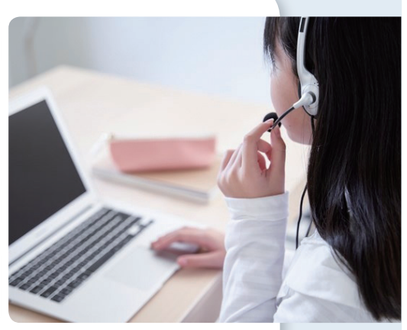
キャリア教育事業

学校教育のIT化にともなう 新しいキャリア教育のカタチ

私たちが最初に懸念したことは、学校教育の現場でIT化が進むことによって発生する「事故」です。情報漏洩の問題も含め、IT化が進む民間の企業においても「事故」は後を絶ちません。

いままでITツールをあまり利用してこなかった学校教育現場でも、先生方や児童・生徒が「知らなかった」ゆえに起こってしまう事故は、これから絶対に起こるだろうと考えました。

それなら「IT安全利用の教育そのものをコンテンツとして用意しよう」というのが、当初の発想です。



学校の苦手な「キャリア教育」

同時に、幸運にも私たちには、「卒業生が在校生に、社会に出てからの仕事の話などを伝えていくキャリア教育セミナー」の事務局を担ってきた仲間がいました。

このキャリア教育セミナーは、公立高校の同窓会を中心にした事務局が、多種多様な業界・業種から、毎年20名以上の卒業生を集め、10年以上も継続している事業です。2020年、コロナ禍で開催そのものが危ぶまれたキャリア教育セミナーでしたが、オンライン講義を交えながら例年通り開催されました。

この2020年のセミナーは、オンラインを取り入れたことで海外在住の卒業生にも声をかけ、グローバルなコンテンツを加えて開催できたのです。この海外からのオンライン講義は、生徒の一番人気の講義となっただけでなく、多くの先生方が関心を持って参観に来るほどでした。

この経験から「komachi」は、ITツールを利用して学校教育現場に貢献できる事業のひとつとして、「キャリア教育事業」をミッションにしようと決めたのです。

現実問題として、学校教育現場で用意できる「キャリア教育のリソース」は地域性に縛られざるを得ません。「komachi」はITという特性を利用して、地理的制約に縛られないコンテンツを用意していきます。

教育改革、IT化、コロナ禍、働き方の変化…
社会のありようが変わっていく中で、
教育のカタチも変わろうとしています。

でも、きっと、ココだけは変わらない。
大切なのは、先生と生徒の関係。

だからkomachiは、ココをしっかりつないでおきたい。

先生とクラスの連絡は、時間割表を通じて。
一人ひとりの関係は、連絡帳を通じて。

komachiはココだけ。
だけど一番大切なところ。

千里に続く最初の一歩を、あなたと共にkomachiから。

学びをもっと自由に

komachi